

▼オンコビン注射用 [注]

【重要度】 【一般製剤名】ビンクリスチニン硫酸塩 (U) Vincristine Sulfate 【分類】抗悪性腫瘍剤 [ビンカアルカロイド]

【単位】 ▼1mg/V

【常用量】添付文書参照

【用法】週1回静注 (1) t1/2 が長くクリアランスが小さいため1週間に1回投与でよい (11) その他の用法は添付文書参照

【透析患者への投与方法】常用量 (1,3,4,6,12)

【保存期 CKD 患者への投与方法】常用量 (3,10,12)

【特徴】細胞の有糸分裂の中期に作用し、細胞分裂中期停止を起こす。血液腫瘍・肉腫を中心に抗腫瘍活性を示す。

【主な副作用・毒性】末梢神経障害、筋力低下、運動失調、脱毛、白血球減少、消化器症状、振戦、痙攣、昏睡、便秘など

【安全性に関する情報】神経毒性は高齢者に出現しやすく総投与量と関連 (1)

【代謝】肝で代謝され70%が3日以内に胆汁に排泄される (11) 肝でCYP3Aで代謝 (U) CYP3Aが関与 (1)

【排泄】尿中未変化体排泄率12% (12,14) 10~20% (13) 胆汁から糞便中に80%排泄、尿中には10~20%回収 (U) 15%が尿中排泄 (6) P糖蛋白質の基質であり未変化体のまま胆汁中に排泄される (13)

【CL】 $0.106 \pm 0.061 \text{L/kg/hr}$ (1) 128mL/min (10) 4.92mL/min/kg 、肝硬変・胆汁うつ滞型肝障害で低下 (13) 【腎CL/総CL】5% (10)

【t1/2】三相性に消失 (U) α 相: 5min (U) 0.1hr (6) 0.08hr (11) β 相: 2.3hr (U) 2.3hr (11) 0.8~2.6hr (4) 1hr (6) 1~2.5hr (12) γ 相: 85hr (U,10,11) 23hr (6) 85hr (14) 22.6hr, deep compartment があるため85hr という報告もある。肝硬変で延長 (13) 【透析患者のt1/2】0.8~2.6hr (4) γ 相: 85hr (10)

【蛋白結合率】48.2% (1) 75% (U,4,10,12) 40% (6) 低 (13)

【Vd】 8.4L/kg (1,10,11,14) 96.9L/m^2 (13) $5 \sim 11 \text{L/kg}$ (12)

【分布】血液・脳関門をほとんど通過しない (U) 中枢神経系に移行する (11)

【MW】923.04 (遊離塩基として825)

【透析性】除去されない (Onkologie 13: 289-294,1990) 資料なし (1)

【TDMのポイント】一般的にTDMは実施されていない

【O/W係数】2.15 (11) 資料なし (1) 【pKa】5.0, 7.4 (1)

【相互作用】CYP3Aの代謝阻害により副作用増強 (1) フェニトインの吸收低下 (1) イトラコナゾール併用により肝障害、便秘、痺れ、低Na血症などのビンクリスチニンの毒性が発現した症例 (長瀬大輔、他: 日化療会誌 56:634-7, 2008)

【更新日】20250515

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適合性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、

直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わざるものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインターネットフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断複数・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。